

転

三年 11
 筆順 亘 車 転 転
 オン テン
 ころりがるりげるりがすり

成り立ち



「伝(4年587)」のいみの「云」と「車」とを組み合わせて作った字です。車がうごきますと、うごきが「伝わ」って、輪(車輪)が回ります。「輪が回ること」をあらわした字です。例回転、空転、自転。

「回りながらうごくこと」を「転がる」といいます。

例転落

「転ぶ」といういみにもつかれます。例転倒。

また、「ばしよがかわる」といういみから「おきばしよをかえる」といういみにもつかれます。例移転、転居、転置、転換。

使い方

▽おむすびは山の上から転がって、ふもとの穴におちました。「おむすびころりん」より。
 ▽おばあさんが転んだので、いそいで助け起こしました。

熟語例

▽転倒(転んで倒れること。「先頭のランナーが転倒してしまいました」などというふうにも、つかいます。)
 ▽移転(場所などを移すこと。「このたび、住居を移転しましたので、お知らせいたします」などというふうにも、つかいます。)
 ▽転居(住居を移すこと。引越すすること。「転居通知」といえば、住所をかえたお知らせのことです。)
 ▽転置(別な所に置きかえること。)
 ▽転換(方向や方針などを、今までと変えること。「稲作から、野菜作りに、方針を転換した」などというふうにも、つかいます。)
 ▽回転(ぐるぐる回ること。「自転車の車輪が回転する」などというふうにも、つかいます。)
 ▽空転(空回りすること。「会議で議論が空転した」などというふうにも、つかいます。)

都

三年 11
 筆順 ナ ヌ 夕 者 都
 オン ト・ツ
 みやこ

成り立ち



くず物入れにくず物がいつぱいつめこまれた形をあらわし、「物がひどく多い」ことをあらわした「者」と、「邑(人のすむ町をあらわした字)」という字をかんだんにした形の「都」とを組み合わせて作った字です。

「人がひどくおおぜいすんでいる町」といういみの字で、「王さまのすむ町」「国で一番大きな町」をあらわした字です。

「大きな町」といういみにもつかわれます。

また、都は「国をすべる(一つにまとめること)」やくしよのある町」ですから、「すべる」↓「すべて」といういみにつかわれます。

使い方

▽わが国の首都は東京ですが、その前は京都でした。それで、京都のことを古都といっています。
 ▽人は都会にあこがれるけいこうがつよく、都市はまい年大きくなる一方です。

熟語例

▽首都(国の中央政府のある都市。「首府」ともいいます。アメリカはワシントン、イギリスはロンドン、フランスはパリです。)
 ▽京都(むかしは「京の都」といいました。京という字も「みやこ」といういみの字です。むかしは、「天子のすむ町」を「みやこ」といい、「京」と書きました。)
 ▽古都(むかし都だったところ。京都の前に都だった奈良も、古都とよばれています。)
 ▽都会(人がたくさんすんでいるにぎやかな町。文化の中心となる大きな町。都市)
 ▽都市(都会のこと。「〇〇市」という名でよばれる町のこと。)
 ▽都度(都は「すべて」のいみ。「毎度(毎度)」「その度ごとに」。例その都度頭を下げました。)